平成19年度　京都府立峰山高等学校　弥栄分校　　学校経営計画　　（まとめ段階）

	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
全教育活動をとおして、生徒・教職員がともに成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。 ［地域と連携した弥栄キャンパスの教育］ ① 分校の特色であるきめ細かな指導による、地域の教育要求に応える教育の推進 ② 校種間、専門機関と連携した、地域と一体となった教育の推進 ［農園芸・家政・環境教育を生かした魅力ある教育と個性を生かす教育の推進］ ① 農業の多面的機能を視野に入れた農業教育の実践 ② 省エネ・環境保全型社会に対応した環境及びエネルギー教育の実践 ③ 家政科における生活産業分野で活躍できる人材の育成 ［自立精神の育成］ ① 人を大切にし、同時にモノを大切にする人材の教育 ② 主体性と社会性を兼ね備え、向上心に富む人材の育成 ［特別教育活動の充実］ ① 部活動や生徒会活動を活性化し、望ましい集団活動をとおした集団の一員としての規律・マナーの育成	［成果］ ① 全総文京都部門「ピンワークディスプレイ」の成功 ② 地域と連携した専門学科の取組、地域に開かれた文化活動の推進（奈具丘祭など） ③ 評価導入による学校・教職員の改善点の明確化 ④ 和、郷土の文化、環境学習の教材化 ⑤ 社会人講師の活用による魅力ある授業の創造 ⑥ 生徒授業評価導入による「わかる授業」の創造 ⑦ ボランティア活動の推進 ⑧ 奈具丘通信等による広報活動の推進 ⑨ 3年生全員の進路が1月末までに決定した。 ［課題］ ①「わかる授業に」向けた一層の授業改善と評価規準の作成、教科の評価方法や年間学習目標の徹底 ② 学業不振・欠席時数オーバーに起因する中退・原留防止のための指導 ③ 社会人として通用するマナー、他者への思いやりの精神の育成、規範意識の向上と指導困難生徒への指導徹底 ④ 幼・小・中学校との校種間連携の推進 ⑤ 教育相談のあり方、特に心に問題を持つ生徒への対応 ⑥ 特別活動、部活動の活性化	①「わかる授業」づくりの推進（シラバス・評価規準作成、授業改善） ② ボランティア活動の充実・発展 ③ インターンシップの実施 ④ 特別活動、部活動の活性化のための取組の推進 ⑤ 規範意識、他者への思いやりを培う高校生活の推進 ⑥ 特別支援教育の整備ときめ細かな指導の推進 ⑦ 配慮を要する生徒への定期的な指導、教育相談の実施 ⑧ 高校生活充実のための保護者への連絡徹底と連携した指導の推進

分掌名		評価領域（業務領域）	項目（重点目標）	具体的方策	評価			成果と課題
0		組織・運営	各分掌間が連携した、生徒への対話、相談、指導体制を確立する。	配慮を要する生徒への定期的な指導、相談体制を確立する。	B	B	B	特別支援教育のスタートが出来た。適応会議も開けたが、中学との情報交換をより強めたい。
				特別支援教育の体制作りを進める。	B			
1	教務部	学力の向上	わかる授業を目指し、生徒に学ぶ姿勢を確立させ、学習習慣をつけ、学力の向上を図る。	基本的な学習の姿勢を確立させる。	C	C	C	学習の姿勢、習慣ともに前進はみられたが、すべての生徒を対象とした時課題が残る。 学力分析も早い時期に実施し、具体的に手を打つことが課題である。
				学習習慣をつけさせる。	C			
				わかる授業を創造する。	B			
				学力分析を行い授業に生かす。	C			
2	生徒指導部（含む人権）	生徒指導	規範意識の向上を図る。	規律が守れない生徒には早期に指導する。	B	B	B	非常識な行為・言動が横行し、風紀を乱しているがどこまでを指導対象とするかの線引きが難しい。効果的な教員の一致した指導を検討する必要がある。 各行事で生徒の一定に成長がみられる。教員主導の域を脱することが課題。 分校単独でアンケートを実施し、教員研修を実施した。生徒の実態に合わせた人権学習内容や時間確保を再検討していく必要がある。
				ルールを徹底し、保護者等も召喚し指導する。	B			
				登下校時には、教員が率先して挨拶し、教室・職員室等で、言葉遣いが悪ければ直させる。	B			
		特別活動	各種行事を通じて、学年の自覚と主体性・協調性や責任感を育成する。	球技大会・学校祭・奈具丘祭等の学校行事を計画的に実施し、学年・クラス・科で取り組ませる。	B	B		
		人権教育	教師・生徒の人権意識を高める。	学期に1回の人権学習を行う。	B	B		
				年間計画を早期に作成し、担任との連携を密にし実施する。	B			
				外部講師を招き教員研修を行う。	B			

分掌名		評価領域（業務領域）	項目（重点目標）	具体的方策	評価			成果と課題
3	進路指導部	進路指導	希望進路の実現に向け、適切な指導を行う。	進路説明会・模擬面接指導等を行い、3年生の希望進路を実現する。	B	B	B	3年の進路をほぼ確定出来たが、1学期末から夏休みに全就職希望者を動かす必要がある。1・2年も進路決定に向けての意識付けができた。ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟは早期に希望を把握し、協力企業を捜す必要がある。
				インターンシップを実施し、正しい職業観を身につけさせる。	C			
				進路ガイダンス、マナー講座等を通して、進路目標を明確にさせる。	B			
4	図書情報部	読書指導等	読書習慣の定着と豊かな人間性の育成を目指す。	読書を推奨するために年1回の「読書の時間」を設定する。	B	A	A	各行事前の情報発信として「図書館便り」を活用できた。行事に対する生徒の反応も良好といえる。今後は映画鑑賞会の作品選定等、生徒の活動を活性化させる必要がある。
				情報の共有及び図書館利用を活性化させるために「図書館便り」や教職員推薦図書を紹介する「立志」を発行する。	A			
				情操教育の一環として「芸術鑑賞」と「ビデオ鑑賞会」を実施する。	A			
				各教科における「調べ学習」等に必要な資料を提供するため、公立図書館等との連携を図る。	B			
5	保健部	健康・安全教育	健康で豊かな生活を送るために、基本的生活習慣、特に「食育」について関心を持たせ、まず朝食を取る事から始める。	自分の健康状態に関心を持たせる。	B	B	B	朝食を食べる行動に結びつかない生徒もいるが、食事の大切さの啓蒙はできた。 個々に課題を抱える生徒が多数いて、発達障害に的を絞ることまでは出来なかった。中高連絡の課題が残っている。
				家政科と連携して取り組む。	C			
				生徒保健委員と一緒になって取り組む。保護者にも呼びかける。	B			
		特別支援教育	特別支援教育に取り組む。	職員研修を行う。	B	B		
6	庶務部	開かれた学校づくり	学校行事の円滑な運営と保護者が多数参加するPTA活動を行う。	関係分掌と連絡を取りながら行事を円滑に進める。	B	B	B	郵送案内で出席が増えたが委員の意識には大きな差がある。校内的には順調に進められた。
				保護者と連携をとり、PTA活動への参加を促す。	B			
7	農場部	教科指導	授業や実験実習におけるルール・マナーを向上させる。	作業の安全性を図るため、服装・頭髪などの指導を行う。	B	B	B	年間を通して授業や実験実習前に、服装や頭髪指導を実施きてきた。 必要に応じて全学年及び3年生環境コースで管理実習ができた。
		学科教育の推進	ボランティア活動・校種間交流など、地域との連携を推進する。	丹後あじわいの郷「フルーツフラワーガーデン」等におけるボランティア活動の継続。	B	B		
8	家政部（含教科）	教科指導	生活産業で必要とされる基礎力の定着とその授業展開について研究する。	分野ごとに基礎知識・技術が定着できる指導を行う。	C	B	B	学習点検表記入で進度を確認し、学習を進めている。分野ごとの基礎知識、実技テスト等について今年度内に検討しておく。 家政科の指導のポイントを生徒に示し、生徒の自主的な活動と併せて取り組ませたい。
				生徒が意欲的に取り組める課題研究の指導を行う。	B			
				生徒のつまずきについては、予想を立てて指導する。	B			
		学科教育の推進	「温故知新 in 家政科」をテーマに”新しい豊かさ”について研究する。	和（郷土）の文化を教材化する。	B	B		
				消費者教育を推進する。	B			
				地域と連携した家庭科教育を推進する。	B			
9	1年部	生活指導	保護者との連絡を密にし、規律ある高校生活を送れるようにする。	年1回以上の家庭訪問を行う。	B	B	B	各項目とも概ね達成でき、生徒も自分の役割を自覚して積極的に取り組める場面も見られた。
				個人面談の回数を増やす。	B			
				自分の役割を果たせる指導をする。しっかり果たさせる指導を行う。	B			
10	2年部	学習指導	進路目標を明確にさせ、学力の向上を図る。	学校生活を大切にさせ、遅刻や欠席をさせない。	B	B	B	卒業後の進路への意識は高くなった。諸事情で2学期末から登校しない生徒があったことは残念である。追認考査の合格率が低く課題として残った。
				整理整頓、清掃をさせる。	C			
				進路学習や面談を通して進路目標を明確にさせる。	B			
				漢字テストの取組を継続する。	B			
11	3年部	進路指導	一人一人が自分の進路希望実現に向けて努力するよう指導する。	各自の進路希望を把握する。	B	B	B	進路はほぼ全員決定したが、学習面で卒業直前までサポートを要する生徒も少なくない。やはり過年度の成績の影響が大きかった。
				各自の課題について明らかにし、家庭と連携しながら適切な指導を行う。	B			
12	事務部	施設・設備管理	安心、安全な学習・校内生活環境整備の促進と維持	自主点検の実施と記録をする。	D	C	C	支援システムによる事務遂行に追われた。順次遂行できたものの、一部手つかずになった。
				早急な情報を得ることと速やかな対策を講じる。	C			
13	国語科	学習指導	国語を的確に理解し、適切に表現する能力を育成する。	校内漢字テストの取組と連動して漢字指導を強化する。	A	A	A	漢字テストは、昨年度よりかなりクラス平均が高くなった。文学作品についても、古今を問わず数多く触れさせることができた。
				文学作品に可能な限り触れさせ、読解力を育成する。	B			
				作文・小論文指導を実施し、表現力を育成する。	B			

分掌名		評価領域（業務領域）	項目（重点目標）	具体的方策	評価			成果と課題
14	地歴公民科	学習指導	わかる授業の実践	ポイントを単元ごとに示し、その要素となる基本的知識を色分けして板書する。	A	A	A	全員を集中させるまではいかないが、真面目に授業に望む生徒が増えている。授業のスピード、レベルについての検討が課題である。
				可能な限り、具体的教材を準備する。	A			
				丁寧に話をして、質問には誠実に答える。	B			
15	数学科	学習指導	基礎学力の向上を図り、社会生活に対応できる数学的知識を身につける。	教材研究を充実させ、板書はノートしやすく工夫する。	B	B	B	反復練習で少しずつできる生徒が増加しているが、四則もままならない生徒もおり、学力の2極化が進む。補習時間固定化の必要あり。
				練習問題を増やし、生徒間で教え合う時間を設ける。	B			
				ミニテストを行う。	B			
16	理科	学習活動	自然の事象、現象について科学的に探求する能力と態度を育てる。	丹後の自然と環境について理解を深めさせる。	B	B	B	身の回りや生活に関わりの深い事柄について、授業内容と絡めて展開できた。
				実験回数を増やす。	B			
				視聴覚教材を有効に活用する。	B			
17	保健体育科	学習活動（体育）	各運動領域に必要な身体感覚や運動技能を身につけ、運動文化であるそれぞれのスポーツを楽しめるようにする。	各種目の特性に合った個人技能・技術を系統的に指導し習熟させる。	B	B	B	スキルテスト、ゲーム結果、グループノートの記入などほぼ達成できた。 ノート記入やレポート作成・調査活動など全員がやりきれた。ビデオ教材の活用が課題。
				グループ（チーム）学習で協力したり責任を果たすことを学ばせる。	B			
				生涯を通じてスポーツに親しむための資質を養う。	B			
		学習活動（保健）	個人及び集団の健康および健康的な社会環境づくりの重要性について、理解を深めるとともに心身の健康増進の実践力を養う。	わが国における健康の現状と対処・予防法を理解させる。	B	B		
				「性」について人間の生と関連させて理解させる。	C			
				2年では2学期に課題学習を行い、調査・まとめ・発表の仕方を	B			
				働くことと健康の問題を理解させる。	B			
18	芸術科	音楽	音楽の基礎的な能力を習得し、表現に活かす。	読譜・視唱の時間を設定する。	B	B	B	歌唱・合唱は全体として意欲的に取り組める。理論等の学習も少しずつ定着してきた。音楽的環境を整える必要あり。 概ね年間計画通り取り組めた。意欲的な場面も見られた。 各々が手本の特徴をつかめるようになり、清書作品がしっかりしていた。清書を仕上げるまでの時間配分が上手になった。
				器楽アンサンブルや合唱に取り組む。	A			
		美術	授業で製作する作品の質的向上を図る。	コンクールに応募することを目標にして、デッサンの基礎力を育	A	A		
				一般応募ポスターコンクールに応募する機会を与えることで、向	A			
		書道	書写能力の向上	臨書体の臨書活動を中心に書写に取り組む。	B	B		
				実生活で多用する行書体を習得する。	B			
				漢字仮名交じりの書や隷書体を学び、創造力を高める。	B			
19	英語科	学習指導	語学や文化について興味を持たせる授業を目指す。	全体及び個々の生徒の学力に応じたプリント等の教材を作成	B	B	B	全般的に興味付けを意識して授業を展開した。学習態度と学力向上が比例したとはいえない。1年生の入学時の学力差が気になる。
				わかりやすい授業を目指し、板書や説明を工夫する。	B			
				基礎学力と学習習慣を定着させる。	C			
次年度に向けた改善の方向性			・「わかる授業」につながる授業改善を進め、授業評価等を一層活用する。 ・配慮を要する生徒の課題を明確化し、組織的に連携、支援する。 ・1限目の欠席・遅刻に現れる生活面で課題を持つ生徒に対してより連携した指導を行う。 ・専門高校の楽しさを伝える広報活動を充実する。 ・奈具丘祭、ボランティア活動など地域との連携を一層強める。					